

政策体系	政策No.	1	政策名	快適で魅力あるまちづくり			施策主管課	建設政策課	
	施策No.	2	施策名	交通体系の充実	重点施策		施策主管課長名	茶園 一智	
施策関係課名	企画政策課、観光課、建設施設管理課、土木課、都市計画課								
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
■交通の要衝として、今後も、交通量の増加が予想される。そのため、国道・県道については道路整備のための要望活動を行い、市道については年次計画により改良を進める。 ■公共交通施策については、関係機関と連携しながら、市民の利便性を高めるための改善に積極的に取り組む。									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市域、市民							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	市域面積	km ²	見込み値	603.68	603.15	603.18	603.18	603.18	603.18
			実績値	603.68	603.15	603.18	603.15		
B	人口(県人口移動調査)+通勤・通学者数(直近の国勢調査)	人	見込み値	176,882	176,868	176,854	176,840	176,826	176,812
			実績値	173,982	173,790	173,280	171,677		
C			見込み値						
			実績値						
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		便利に移動できる ※「便利に移動できる」とは、 ・交通機関…多様な移動手段が確保される、路線や便数が確保される。							
		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	道路ネットワークの満足度(幹線道路) ※国道、県道、市道など大きな道路	%	成り行き値	62.0	62.8	63.0	63.0	63.0	63.0
			目標値	62.5	62.9	63.0	63.1	63.2	63.3
			実績値	65.4	61.3	59.9	59.6		
			達成率	105%	97%	95%	94%		
			結果	◎	○	○	△		
B	道路ネットワークの満足度(生活道路) ※市道	%	成り行き値	59.7	66.7	66.7	66.7	66.7	67.0
			目標値	60.0	68.0	68.0	68.0	68.0	68.0
			実績値	67.2	68.0	65.8	63.9		
			達成率	112%	100%	97%	94%		
			結果	◎	○	○	△		
C	鉄道の利用者 ※単位は、路線/便数/のべ利用者数 【便数:一日あたり】 【のべ利用者数:年間】	路線/便/千人	成り行き値	2/124/3,550	2/115/3,900	2/115/3,900	2/115/3,800	2/115/3,800	2/115/3,700
			目標値	2/124/3,700	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950
			実績値	2/116/3,906	2/116/4,109	2/116/3,857	2/116/3,883		
			達成率	100/94/106%	100/101/104%	100/100/98%	100/101/98		
			結果	○/△/◎	○/○/○	○/○/○	○/○/○		
D	航空の利用者 ※単位は、路線/便数/のべ利用者数 【路線:鹿児島空港】【便数:国内線一日あたり、国際線一週間あたり】【のべ利用者数:年間】	路線/便/千人	成り行き値	22/81/5,560	19/79/4,460	19/79/4,460	19/79/4,300	19/79/4,300	19/79/4,200
			目標値	24/84/6,000	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550
			実績値	19/84/4,783	21/95/5,113	21/102/5,172	21/99/5,235		
			達成率	79/100/80%	111/116/110%	111/124/111%	111/121/115		
			結果	△/○/△	◎/◎/◎	◎/◎/◎	◎/◎/◎		
E	バス(路線・コミュニティ)の利用者 ※単位は、路線/便数/のべ利用者数 【便数:一日あたり】 【のべ利用者数:年間】	路線/便/千人	成り行き値	34/150/154	69/226/270	69/226/270	69/226/260	69/226/260	69/226/250
			目標値	73/384/442	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290
			実績値	72/222/282	70/222/280	70/222/266	70/222/263		
			達成率	99/58/64%	103/97/97%	103/97/92%	103/97/91		
			結果	○/△/△	○/○/○	○/○/△	○/○/△		
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)		⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方							
A 道路ネットワークの満足度(幹線道路) ※総合計画進行管理に係る市民意識調査		A 「道路ネットワークの満足度(幹線道路)」については、道路を計画的に整備することにより、平成23年度の実績値62.7%から毎年度0.1ポイントの成果向上を目指す。							
B 道路ネットワークの満足度(生活道路) ※総合計画進行管理に係る市民意識調査		B 「道路ネットワークの満足度(生活道路)」については、道路整備を計画的に進めていくものの、路面劣化による要望などが増加する傾向にあることから、満足度の上昇は難しいと考えられるため、概ね現状維持に努める。							
C 鉄道の利用者、D 航空の利用者、E バスの利用者 ※公共交通機関の路線/便数/利用者数 ※各事業者の実績データ ※バスに関しては、市が補助金交付あるいは委託している路線の利用者数		C 「鉄道の利用者」については、少子化により通学者数の減少が懸念されるが、鉄道を利用した観光商品の造成により、観光客等の増加を見込み、概ね現状維持に努める。							
		D 「航空の利用者」については、県と連携しながら空港アクセス道路や公共交通機関の整備・充実による利便性の向上を図ることで、観光客等の増加を見込み、平成23年度の実績値18路線/79便/4,462千人から概ね1路線/3便/90千人の増加を目指す。							
		E 「バスの利用者」については、少子高齢化・過疎化などに伴う利用者数の減少が懸念されるが、地域住民の行動特性に合わせたふれあいバスやデマンド交通などコミュニティバスの運行形態の改善やバス情報の周知などにより現状維持に努める。							

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 市内幹線道路の渋滞を解消するため、バイパス道路や地域の拠点施設を結ぶアクセス道路を整備する必要がある。
- 生活道路や老朽化による劣化・損傷が著しい道路を整備する必要がある。
- 橋梁の長寿命化については、特に早急な対応が求められている。
- 平成23年の九州新幹線鹿児島ルート全線開業を受け、引き続き観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの整備や輸送力強化、利便性・快適性の向上等を図る必要がある。
- 鹿児島空港の利用促進を図ることで、乗降客の増加に努める必要がある。
- 将来の貨物運送需要に対応するため、港湾整備を進めていく必要がある。
- 日常生活の交通移動手段の確保や観光客の利便性の向上のため、バス等の公共交通体系を整備する必要がある。
- ふれあいバス等の利用者が減少している中で、デマンド交通等の多様で、かつ効率的な交通移動手段を検討する必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア)行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ)市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■市・県・国 ・道路整備率の向上促進(空港、駅等の拠点施設の整備促進及び拠点施設を結ぶ幹線道路の整備)、交通機関の乗客数、交通量調査、交通機関への意識調査などの実施、交通機関の整備計画、年次計画の策定。 ■市 ・公共交通機関の確保(コミュニティバス等の運行及び路線バス等の運行支援、隣接市町と連携した交通機関への整備運動)、市民に対する交通機関の利用促進、交通結節点などにおける環境整備(駐車場、バス停など)の実施。 ・市民、交通機関への乗客増加推進のための取組、各交通機関への充実を求める要望活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民 ・交通機関の積極的な利用、道路等の清掃活動、やぶ払いなどの環境保全活動への協力。 ■公共交通機関 ・交通路線、便数の確保と安全運行。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 道路:合併後の市道整備の費用対効果による優先順位の見直し、国の制度、事業の見直しにより、市の道路整備の十分な財源確保が難しい状況である。
- 鉄道:JR九州の株式を上場して完全民営化するため、国の監督を受けずに経営できるようにする改正JR会社法が平成27年6月に成立した。今後、経営の更なる合理化等により、採算重視による赤字路線の廃止や有人駅の無人駅化等が懸念される。
- バス:
- ・持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生を推進することを目的とした、「改正地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が平成26年11月20日に施行され、公共交通ネットワークの再構築を図る環境が整った。
- ・75歳以上のドライバーを対象に、記憶力や判断力を測る「認知機能検査」の強化を柱とした改正道路交通法が平成27年6月11日に成立した。厚生労働省によると、2012年時点の認知症の高齢者は推計約462万人。2025年には700万人に達し、高齢者の5人に1人が認知症になる見込みであり、高齢者の移動手段の確保が今後の重要な課題となる。
- 航空:格安航空会社の参入や海外路線の充実などにより利用者数が増加傾向にある。海外路線について、円安傾向によって更に外国人の利用者が増加すると見込まれるが、日本からの利用者が少ないため、アウトバウンド対策(日本から海外への渡航者)による路線維持が課題となっている。
- 港湾:隼人港外港の整備については、社会情勢の変動に伴う湾奥部の物流機能減少により、平成20年度以降休止状態であるが、将来的には空港・高速道路と一体となった海上輸送が可能なことから、県内でも需要の見込まれる港湾になると思われる。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 各地区自治公民館が提出する「まちづくり計画」において、道路整備に関する要望が多数あがっている。
- 議会の一般質問でも、具体的な整備計画の質問がある。(例)幹線道路の整備をしてほしい。空港アクセス道路の整備対策をとるべき。
- 市民意識調査では、幅員が狭い、渋滞している等の意見がある。
- 「地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築に向けた取組」について一般質問がなされた。
- 地区自治公民館等からデマンド交通の導入に関する要望が上がっている。
- 観光客からは、航空、バスの連絡をよくしてほしいという要望がある。

5 施策の現状

① 平成27年度施策の取組方針	② 平成27年度施策の取組方針の達成状況
<p>■市内幹線道路の渋滞を解消するため、バイパス道路の整備や地域の拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を計画的に行う。</p> <p>■生活道路については、年次計画に基づいた改良を行う。</p> <p>■橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。</p> <p>■航空については、関係機関と協力しながら現行路線の維持やチャーター便の確保に努める。</p> <p>■隼人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今後も引き続き要望していく。</p> <p>■公共交通ネットワークの抜本的な見直しに向けて、現状や課題等を整理するとともに、基本的な方針を決定する。</p> <p>■ふれあいバスの乗車率が低い路線については、地区ごとの人口規模や高齢化の状況などの地域の特性に配慮しながら、デマンド交通への転換を図る。</p>	<p>■幹線道路については、新川北線(しらさぎ橋を含む)、鎮守尾～上之原線、平和通線外8路線の整備を計画的に行った。また、国道・県道については、市長会や期成会・協議会を通じて道路整備の要望を行った。</p> <p>■生活道路等については、小浜海岸線外30路線の整備を計画的に行った。また、三日月通り線外12路線の改良や補修工事を行った。</p> <p>■俵渡橋外6橋の橋梁修繕と下河畑橋外4橋の設計委託及び110橋の点検業務を行った。</p> <p>■国際定期路線の利用者増の取組(団体利用とビジネス展開目的利用に対して費用の一部を助成)を行うことで、現行路線の維持に努めた。また、国民文化祭に併せて「その文化祭」を開催して、航空に対する理解促進に取り組んだ。</p> <p>■隼人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今年も県市長会を通じて要望を行った。</p> <p>■本市における公共交通の基本方針、計画の区域、計画の目標並びに目標を達成するために行う事業及びその実施主体、計画の達成状況の評価に関する事項などを記載した「霧島市地域公共交通網形成計画」を策定した。</p> <p>■霧島市地域公共交通網形成計画の中で、ふれあいバスを継続運行する地区とデマンド交通への転換を図るべき地区について一定の指針を定めた。</p>

③ 平成27年度施策の目標値と実績値の比較	④ 平成27年度施策の成果指標の達成状況及び要因																																							
<p>目標達成 ◎ 105%以上 目標をほぼ達成 ○ 95%～105%未満 目標を未達成 △ 95%未満</p> <table border="1" data-bbox="108 801 571 1025"> <thead> <tr> <th colspan="4">平成27年度成果指標</th> <th rowspan="2">結果</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>63.1</td> <td>59.6</td> <td>94%</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>68.0</td> <td>63.9</td> <td>94%</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>2/115/3,950</td> <td>2/116/3,883</td> <td>100/101/98</td> <td>○/○/○</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>19/82/4,550</td> <td>21/99/5,235</td> <td>111/121/115</td> <td>◎/◎/◎</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>68/229/290</td> <td>70/222/263</td> <td>103/97/91</td> <td>○/○/△</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成27年度成果指標				結果		目標値	実績値	達成率	A	63.1	59.6	94%	△	B	68.0	63.9	94%	△	C	2/115/3,950	2/116/3,883	100/101/98	○/○/○	D	19/82/4,550	21/99/5,235	111/121/115	◎/◎/◎	E	68/229/290	70/222/263	103/97/91	○/○/△	F					<p>A. 市民意識調査による道路ネットワークの満足度(幹線道路)は、平成26年度実績値59.9%に対して平成27年度の実績値は59.6%となり、0.3ポイント減少した。目標値63.1%に対して達成率は94%となり、未達成である。性別、年齢別、地区別もほぼ同様の傾向にある。0.3ポイント減少した要因としては、「円滑に移動できていない」と回答した者のうち、幅員がせまいと答えた人の割合が55.5%で、平成26年度の54.5%から1.0ポイント高くなっており、幅員が改善されていないと思う人が増加したことなどが考えられる。</p> <p>B. 市民意識調査による道路ネットワークの満足度(生活道路)は、平成26年度実績値65.8%に対して平成27年度の実績値は63.9%となり、1.9ポイント減少した。目標値68.0%に対して達成率は94%となり、未達成である。性別、年齢別、地区別もほぼ同様の傾向にある。1.9ポイント減少した要因としては、「円滑に移動できていない」と回答した者のうち、幅員がせまいと答えた人の割合が68.8%で、平成26年度の68.4%から0.4ポイント高くなっており、幅員が改善されていないと思う人が増加したことなどが考えられる。</p> <p>C. JR利用者数は前年度と比較して0.7ポイント増加した。利用者数は昨年並みに推移している。</p> <p>D. 航空の利用者については、いずれの項目も目標を達成できた。路線維持、利用者増を図る取組や、航空に対する理解促進の効果があったためと考えられる。</p> <p>E. バス利用者については、前年度と比較して1ポイント減少した。このうちふれあいバスの利用者については、6ポイント、市街地循環バスについては4ポイント増加しているものの、県廃止路線代替バスについては5ポイント減少している。県廃止路線代替バスの利用者は全路線の利用者数262,931人に対し、151,944人であり、全体の約73%を占めている。この利用者の大部分を占める県廃止路線代替バスの利用者は年々減少しており、昨年から本年にかけてはそれが顕著であったため、前年度と比較したとき、結果的に全体として1ポイントの減となった。なお、ふれあいバスの中でも国分地区については、前年度と比較し3,150人(9ポイント)の増となっており、その要因として、木原小学校、川原小学校などの特認校生が増加し、ふれあいバスを利用した通学者が増えたことが挙げられる。</p>
平成27年度成果指標				結果																																				
	目標値	実績値	達成率																																					
A	63.1	59.6	94%	△																																				
B	68.0	63.9	94%	△																																				
C	2/115/3,950	2/116/3,883	100/101/98	○/○/○																																				
D	19/82/4,550	21/99/5,235	111/121/115	◎/◎/◎																																				
E	68/229/290	70/222/263	103/97/91	○/○/△																																				
F																																								

⑤ 基本事業の目標達成度 (平成27年度目標と実績との比較)	○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成			
	① 道路ネットワークの構築及び道路施設の保全	△	⑤	
	② 鉄道・航空の路線確保及び港湾の整備促進	△	⑥	
	③ バス輸送等の確保	△	⑦	
	④		⑧	

6 平成28年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより) | 7 平成29年度に向けた施策の課題・方向性

<p>【参考:昨年度の内容】</p> <p>■市内幹線道路の渋滞を解消するため、バイパス道路の整備や地域の拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を計画的に行う。</p> <p>■生活道路については、年次計画に基づいた改良を行う。</p> <p>■橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」と定期的な詳細点検に基づき、年次的に予防修繕を行う。</p> <p>■航空については、関係機関と『連携』しながら現行路線の維持や『運行便数の増加』に努める。(ポイント:海外路線の維持と増便)</p> <p>■隼人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今後も引き続き県などに要望していく。</p> <p>■平成27年度中に策定する「霧島市地域公共交通網形成計画」に基づき、実施計画(地域公共交通再編実施計画)の策定を進める。</p>	<p>■市内幹線道路の渋滞を解消するため、バイパス道路の整備や地域の拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を計画的に行う。また、国道については、地域からの要望を含め、早期完成に向けて国や県に要望を行う。</p> <p>■生活道路については、幅員狭小や排水未整備路線等の環境下にある路線について、計画的な整備を行う。</p> <p>■道路の維持管理については、迅速な対応が可能となる包括的民間委託等さまざまな手法について検討していく。</p> <p>■橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」と定期的な詳細点検に基づき、年次的に予防修繕を行う。</p> <p>■航空については、県内の主要観光地としてのPRに努めるとともに、国や関係機関に対しては利便性向上の対策実施を要望するなど、利用者増、路線維持、便数の増に取り組む。</p> <p>■隼人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今後も引き続き県などに要望していく。</p> <p>■ふれあいバスの運行形態の見直しや、JR国分駅のバリアフリー化など、霧島市地域公共交通網形成計画に基づき、事業を着実に推進する。</p>
--	--

基本事業No.	1-2-1	基本事業名	道路ネットワークの構築及び道路施設の保全	基本事業 主担当課	建設施設管理課 土木課、都市計画課
---------	-------	-------	----------------------	--------------	----------------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を行う。
- 生活道路については、年次計画に基づき改良や補修に努める。
- 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。

②対象	市域、市民、道路の利用者	③意図	安全・快適に移動ができる
-----	--------------	-----	--------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				A 改良率	%	道路現況調査 (規格改良済/実延長)	成り行き値 53.0 目標値 57.0 実績値 47.4 達成率 82% 結果 △	56.0 57.0	56.0 57.0
B 舗装率	%	道路整備実績	成り行き値 85.0 目標値 93.0 実績値 93.5 達成率 101% 結果 ○	87.0 88.0	87.0 88.0	87.0 88.0	87.0 89.0	87.0 89.0	
C 渋滞箇所数	箇所	主要幹線道路との交差点	成り行き値 10.0 目標値 8.0 実績値 9.0 達成率 88% 結果 △	8.0 8.0	8.0 8.0	8.0 8.0	8.0 7.0	8.0 6.0	
D 道路に関する苦情件数	件	苦情台帳	成り行き値 1,350.0 目標値 1,290.0 実績値 1,389.0 達成率 86% 結果 △	1,360.0 1,290.0	1,360.0 1,290.0	1,370.0 1,290.0	1,380.0 1,290.0	1,390.0 1,290.0	
E 橋梁の修繕率	%	霧島市橋梁長寿命化修繕計画	成り行き値 0.0 目標値 1.0 実績値 0.2 達成率 15% 結果 △	0.0 2.0	0.0 4.0	0.0 6.0	0.0 8.0	0.0 10.0	

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A、B 道路の改良率、舗装率についての目標設定は、生活道路及び橋梁の経年劣化を踏まえ、年度計画で市道の改良工事や舗装工事を行い、また、地域間交流を推進するため、長期計画により幹線道路、生活道路の整備を促進し、さらに道路標識の充実を図る計画である。
 C 渋滞箇所数(交差点)は、人口並びに交通量の増加がある中で、交差点等の改良工事を年度計画で実施し、解消する目標設定である。
 D 道路に関する苦情件数については、年々増加しており、今後は市民にお願いするもの、市で対応するものなどについて協議を行いながら早めに対処することで現状水準に努める。
 E 橋梁の修繕率については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき修繕を行う。

4 平成27年度基本事業の取組方針 | **5 平成27年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を行う。 ■生活道路については、年次計画に基づき、改良や補修を行う。 ■橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、年次的に予防修繕を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■広域的な地域間交流を促進するため、新川北線(しらさぎ橋を含む)、鎮守尾～上之原線、平和通線外8路線の整備を計画的に行った。また、国道・県道については、市長会や期成会・協議会を通じて道路整備の要望を行った。 ■生活道路等については、小浜海岸線、下植村・下新原線、狭名田～水流山線等が完成し、引き続き、三体堂線、宝瀬線等は整備を計画的に行った。また、三日月通り線外12路線の改良や補修工事も行った。 ■橋梁については、110橋の点検業務を行い、下河畑橋外4橋の設計委託、俵渡橋外6橋の橋梁修繕を行った。
--	--

6 平成27年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- A. 改良率は、目標値58%に対して達成率は82%となった。要因としては、社会情勢や交通量等の変化により事業計画を見直したことによる。
- B. 舗装率は、目標値89.0%に対して達成率105%となり、前年度より1ポイント下がった。
- C. 渋滞箇所数は、平成26年度実績値と横ばいであり、平成27年度の目標値8箇所に対して実績値8箇所ので、達成率は100%であった。要因としては、国道道の交差点改良により渋滞が緩和されたことなどが考えられる。
- D. 道路に関する苦情件数は、平成26年度の実績値2,201件に対し、平成27年度の実績値は2,296件となり、95件増加した。苦情件数は年々増加しており、その要因として、施設の老朽化や地域住民の高齢化に伴い草払い等が困難になったことなどが考えられる。
- E. 橋梁の修繕率は、目標値の6.0%に対し、達成率は35%となった。「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、計画的に実施しているが、老朽化に伴い損傷が著しい橋梁も見受けられたことから、修繕費用が多額になったことなどが考えられる。

7 平成28年度基本事業の取組方針

- 市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を行う。
-
- 生活道路については、年次計画に基づき、改良や補修を行う。
- 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」及び橋梁詳細点検に基づき、年次的な予防修繕を行う。

8 平成29年度に向けた基本事業の課題・方向性

- 市内幹線道路の渋滞解消のためのバイパス道路の整備や地域拠点施設を結ぶアクセス道路の整備を進める。なお、毎年、国からの交付金が減少していることから、整備に当たっては、他財源の検討を含め予算確保に努める。また、国道道については、地域からの要望を含め、早期完成に向けて国や県に要望を行う。
- 生活道路については、年次計画に基づき、改良や補修を行う。
- 道路の維持管理については、迅速な対応が可能となる包括的民間委託等さまざまな手法について検討していく。
- 橋梁については、「霧島市橋梁長寿命化修繕計画」及び橋梁詳細点検に基づき、年次的な予防修繕を行う。

基本事業No.	1-2-2	基本事業名	鉄道・航空の路線確保及び港湾の整備促進	基本事業 主担当課	企画政策課、観光課、土木課
---------	-------	-------	---------------------	--------------	---------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常生活の移動手段の確保や観光客の利便性の向上を図るため、公共交通機関に対して路線数や運行便数の増加を働きかける。 ■ 鉄道については、平成23年の九州新幹線鹿児島ルート全線開業を受け、関係機関等との連携を図りながら、鉄道を利用した観光商品の造成など利用者の増加につながるような施策を展開する。 ■ 航空については、県や関係機関との連携を図りながら、国内のみならず海外への路線やチャーター便の確保に努める。 ■ 単人港外港の建設に向けて、継続して協議を進める。 		
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、空港の利用者 ・港湾の利用者 	③意図 利便性が確保できる

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
					(目標年度)	(目標年度)	(目標年度)	(目標年度)	(目標年度)	(目標年度)
A	鉄道の利用者	路線/便/千人	鉄道の路線数/便数/利用者数(千人)	成り行き値	2/124/3,500	2/115/3,900	2/115/3,900	2/115/3,800	2/115/3,800	2/115/3,700
				目標値	2/124/3,700	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950	2/115/3,950
				実績値	2/116/3,906	2/116/4,109	2/116/3,857	2/116/3,883		
				達成率	100/94/106%	100/101/104%	100/100/98%	100/101/98%		
				結果	○/△/◎	○/○/○	○/○/○	○/○/○		
B	航空の利用者	路線/便/千人	航空の路線数/便数/利用者数(千人)	成り行き値	22/81/5,560	19/79/4,460	19/79/4,460	19/79/4,300	19/79/4,300	19/79/4,200
				目標値	24/84/6,000	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550	19/82/4,550
				実績値	19/84/4,783	21/95/5,113	21/102/5,172	21/99/5,235		
				達成率	79/100/80%	111/116/110%	111/124/111%	111/121/115%		
				結果	△/○/△	◎/◎/◎	◎/◎/◎	◎/◎/◎		
C	単人港・福山港の利用数	隻数/千トン	入港隻数/取扱貨物量(千トン)	成り行き値	1,844/20	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8
				目標値	1,844/20	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8	2,212/8
				実績値	2,192/7.26	2,177/7.23	2,014/10.83	-		
				達成率	119/36%	98/90%	91/135%			
				結果	◎/△	○/△	△/◎			

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 鉄道利用者については、少子化等により通学者数の減少が懸念されるが、鉄道を利用した観光商品の造成により観光客等の増加を見込み、現状を維持する。
 B 航空の利用者については、県や関係機関との連携を図りながら、国内のみならず海外への路線やチャーター便の確保に努める。
 C 福山港については、現在延命化の整備を進めている。単人港外港改修事業については、県の財政健全化の取組の関連で、平成20年度以降休止の状態ではあるが、霧島地区の将来の貨物需要に対応するとともに災害緊急時における交通手段確保のためにも必要であるため、引き続き整備実現に向けた要望を行っていく。単人港本港に関しては、現状の隻数でほぼ許容量に達しており、これ以上の成果向上が期待できないため現状維持とする。

4 平成27年度基本事業の取組方針 **5 平成27年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■ 鹿児島県鉄道整備促進協議会に対し引き続き要望を行うとともに、特に必要性が高い案件については、直接JR九州等に要望を行っていくこととする。 ■ 引き続き、現行路線の維持やチャーター便の確保に努めるため、関係団体等と連携を密にするとともに、路線維持のためのPR等を積極的に行う。 ■ 単人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今後も引き続き要望していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鹿児島県鉄道整備促進協議会に対し駅・駅周辺の施設整備、改善などによる利便性・快適性の向上や新駅設置について、また、環霧島周遊臨時列車の運行などについての要望を行った。 ■ 国際定期路線の利用者増の取組(団体利用とビジネス展開目的の利用に対して費用の一部を助成)を行うことで、現行路線の維持に努めた。また、国民文化祭に合わせて「そらの文化祭」を開催して、航空に対する理解促進に取り組んだ。 ■ 単人港外港の整備について、県に要望を行った。
---	--

6 平成27年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A JR利用者数は前年度と比較して0.7ポイント増加した。利用者数は平年並みに推移している。
 B 航空の利用については、いずれの項目も目標を達成できた。路線維持、利用者増を図る取組や、航空に対する理解促進の効果があつたためと考えられる。
 C 平成26年度の入港隻数は、前年と比べて163隻の減、達成率は7ポイント減少した。平成26年度の取扱貨物量は前年と比べて3.60千t増加し、達成率は38ポイント増加した。(平成27年度の取扱貨物量のデータがまだ公表されていないため、平成26年度の数値を利用。)入港隻数は減っているが、取扱貨物量は増加している。

7 平成28年度基本事業の取組方針 **8 平成29年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■ 鹿児島県鉄道整備促進協議会に対し引き続き要望を行うとともに、特に必要性が高い案件については、直接、JR九州等に要望を行っていくこととする。 ■ 航空については、関係機関と連携しながら現行路線の維持や運行便数の増加に努める。 ■ 単人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今後も引き続き県などに要望していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鹿児島県鉄道整備促進協議会に対し引き続き要望を行うとともに、特に必要性が高い案件については、直接、JR九州等に要望を行っていくこととする。 ■ 航空については、県内の主要観光地としてのPRに努めるとともに、国や関係機関に対しては利便性向上の対策実施を要望するなど、利用者増、路線維持、便数の増に取り組む。 ■ 単人港外港建設については、将来的な貨物需要への対応や災害時の緊急避難路を確保する必要性があることから、今後も引き続き県などに要望していく。
---	--

基本事業No.	1-2-3	基本事業名	バス輸送等の確保	基本事業 主担当課	企画政策課
---------	-------	-------	----------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
地域住民の行動特性に合わせた、ふれあいバスやデマンド交通などコミュニティバスの運行形態の改善やバス情報の周知を図るほか、民間バス会社との連携を密にして運行路線維持に努め、乗客の利便性向上に向けた検討・協議を行う。	
②対 象	バスの利用者
③意 図	利便性が確保できる

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	バスの利用者	路線/ 便/ 千人	バスの路線数/便数/利用者数(千人)	成り行き値	34/150/154	69/226/270	69/226/270	69/226/260	69/226/260	69/226/250
				目標値	73/384/442	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290	68/229/290
				実績値	72/222/282	70/222/280	70/222/266	70/222/263		
				達成率	99/58/64%	103/97/97%	103/97/92%	103/97/91%		
				結果	○/△/△	○/○/○	○/○/△	○/○/△		

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A バスの利用者については、少子高齢化・過疎化などに伴い利用者数の減少が懸念されるが、地域住民の行動特性に合わせたコミュニティバスの運行形態の改善や路線バスを含むバス情報の周知等により利用促進を行い、現状維持に努める。

4 平成27年度基本事業の取組方針 **5 平成27年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■ふれあいバスの乗車率が低い路線については、地区ごとの人口規模や高齢化の状況などの地域の特性に配慮しながら、デマンド交通への転換を図る。 ■公共交通ネットワークの抜本的な見直しに向けて、現状や課題等を整理するとともに、基本的な方針を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■霧島市地域公共交通網形成計画の中で、ふれあいバスを継続運行する地区とデマンド交通への転換を図るべき地区について一定の指針を定めた。 ■本市における公共交通の基本方針、計画の区域、計画の目標並びに目標を達成するために行う事業及びその実施主体、計画の達成状況の評価に関する事項などを記載した「霧島市地域公共交通網形成計画」を策定した。
--	---

6 平成27年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A バス利用者については、前年度と比較して1ポイント減少した。このうちふれあいバスの利用者については、6ポイント、市街地循環バスについては4ポイント増加しているものの、県廃止路線代替バスについては5ポイント減少している。県廃止路線代替バスの利用者は全路線の利用者数262,931人に対し、151,944人であり、全体の約73%を占めている。この利用者の大部分を占める県廃止路線代替バスの利用者は年々減少しており、昨年から本年にかけてはそれが顕著であったため、前年度と比較したとき、結果的に全体として1ポイントの減となった。なお、ふれあいバスの中でも国分地区については、前年度と比較し3,150人(9ポイント)の増となっており、その要因として、木原小学校、川原小学校などの特認校生が増加し、ふれあいバスを利用した通学者が増えたことが挙げられる。

7 平成28年度基本事業の取組方針 **8 平成29年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度に策定した「霧島市地域公共交通網形成計画」に基づき、地域公共交通網推進事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「霧島市地域公共交通網形成計画」に基づき、ふれあいバスの運行形態の見直しや、JR国分駅のバリアフリー化などの事業を着実に推進する。
--	--